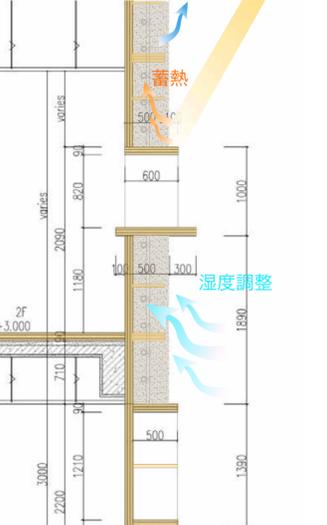
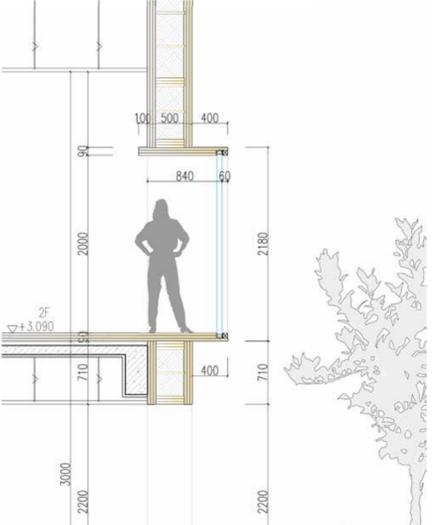


05 暮らしの舞台を塗り重ねる

CLTで囲われた蔵の空間は前面道路と裏庭に開くことができ、高い空間の中にCLTの縁側がはり出した空間となっていて、トップライトからの光が、陳列された地元の野菜や民芸品、CLTのカフェテーブルなどを照らす。居住者たちは居住エリアから自由にこの蔵へ出入りでき、地元野菜の料理法や蔵造りの工法などを伝えるまちのインフルエンサーとなって来客者と交流しながらこの高い空間に参加する。この土間のような、通り庭のような、または公園のような蔵の空間があることで高齢者は地域コミュニティに対して自分の経験や知識をシェアする機会を常に有することができるばかりか、その地域への帰属意識も育まれることになる。また入居後から無理のない範囲(人手の有無、運営状況、補助金申請等)で検討&施工されていく土壁の工程は、ワークショップとして地域住民や都内からも広く参加者を集うことで、この建物の「交流人口/関係人口」を醸成していく。こうした蔵の中の人と人のつながりのなかで、このCLT壁は変化し、成長していく。



CLTの蔵壁の変化が進めば進むほど交流人口が増える同様のプロジェクトが増えることでこの輪は幾重にも繋がっていき、街の伝統が人の手で引き継がれていく。



CLT GRIDを土壁が埋めた様子。木と土の柔らかな空間は調湿、蓄熱性能がさらに向上し、高齢者に優しい環境をつくり出す。



CLTのはね出しスラブが蔵空間に顔を出し、高齢居住者たちのにぎやかなコミュニケーションを促す

06 建築から街へ
CLTによって自由になった蔵造りの土壁工程、その塗り重ねのための長い時間をコミュニティ形成の時間と捉えることができる。そこで得た経験と知識は、この施設の運営母体と居住者たちにより保存、蓄積されるため、居住者たちは伝統技術の継承者となる。専門職と専門知識を民主化するような試みのこの建物は、高齢者たちと街、そして訪れる人たちとを木と土のあたたかな空間の中でつなぎ、その地域の伝統文化をいきいきと伝承していただく。街に馴染む、CLTの新しい使い方の提案である。

- 11 CLT建築による施工改善で地域の歴史建築とその技術を継承する場を創出する。
- 12 一次施工にて規格化したパネルを用い、家具等への転用を促進する。
- 13 CLT構造に土壁を加えることでよりパッシブな温熱環境を実現する。
- 15 CLTには埼玉県秩父産の杉を用い、地産地消を心がける。

